

テレビを見ながら働く職場から

関西テレビ放送株式会社CSR推進局コンプライアンス推進部 芦原 愛一郎 *Asihara, Aiichiro*

1 自己紹介

「テレビを見ながら仕事ができるなんて、なんていい職場なんだろう」と思ったのが、入社した時の最初の感想でした。私は、2012年12月に司法修習終了後、2013年1月に現在の会社に入社しました。入社してから丸2年が経過し、もうすぐ3年になろうとしています。職場では従業員全員が見える位置にテレビが十数台並んでおり、全てのチャンネルが見えるようになっています。私にもデスクの横に専用のテレビがあり、テレビを見ながら仕事をすることもあります。そんな環境で現在働いています。

2 入社経緯

本格的に就職活動を始めるまでは企業内弁護士になろうという考えは全くありませんでしたし、企業内弁護士という選択肢があること自体も知りませんでした。きっかけは、弁護士会が主催している就職説明会でした。法律事務所の説明会を一通り回ったところで、企業のブースが空いていたので、入ってみたところこんな選択肢もあるんだな、というのを知って初めて興味を持ちました。

現在の会社に入社したきっかけは単純に「テレビ局で仕事ができるなんて面白そうだな」と思ったからです。入社面接では、法律の話はほとんどなく（したのかもしれませんが忘れました。）、昔見ていた番組や最近面白かった番組の話をしました。入社して何をしたいかと聞かれた時には「映画やバラエティ番組を作りたい」と答えていました。今思えば、恥ずかしいくらいの大口をたたいていましたが、当時はそのような気持ちで受けていました。ただ、面接を終えた後には、こんなのでは絶対不採用だなと思っていましたので、採用の連絡が来た時に

は非常に驚きました。

3 業務内容

業務内容は契約書審査、法律相談、コンプライアンス業務等を行っています。契約書審査については売買や賃貸借等のなじみ深い契約書はいいのですが、イベント契約、ライセンス契約、出演契約などのエンタメ系の契約書は、当初、業界の慣習やビジネス上のテレビ局の立ち位置等がわからず、契約を理解するのに苦労した覚えがあります。

法律相談については、法律相談というよりも「何でも相談屋」という感じです。全く法律の問題ではない相談もありますし、よくわからないけどこんなのどうですか、といったようなざっくりとした相談もあります。

テレビ局で特有なのは番組内容やCMに関する相談かと思います。番組内容やCMに関していえば放送法や放送基準などの準則がありますが、どれも非常に曖昧な文言で先例も少ないので、基準がないと言ってもよいくらいです。その上、近年、テレビを見る目は厳しくなっており、過剰ともいえるような「配慮」も多くなっています。しかし、このような「配慮」が多くなると番組が面白くなるので、この種の相談を受けた際には明確な理由がない限り、NOと言わないよう心がけています。

4 自社の業務について

(1) テレビ局の特徴

弊社では部署によって業務内容が全く異なり、それぞれの部署ごとに異なる風土を持っているため、部署が変わると違う会社に来たのではないか、というくらいのインパクトがあります。そのため、社員でも自分が所属したこと

ない部署の業務はよくわからないことが多いと感じます。これはテレビ局のビジネスモデルにも関係していると思われます。広告主の意向、視聴者からの見え方、報道機関としての立場などがあり、どの立場から問題に向き合うべきかという判断も重要になると感じています。

(2) 自社業務への理解

社内弁護士として重要なのは自社の業務を理解することであるとよく言われます。それは全くそのとおりだと感じます。法務の仕事はビジネス上の法的問題点をいかに解決するかということにありますので、自社の業務を理解していないと何をすることも仕事になりません。ただ、その理解をどう深めていくか、ということこれは難しい問題だと感じています。

入社当時、まずは会社内の各部署の業務を勉強してから、と思っていました。しかし、何の案件もないのに社内の勉強をすることは非常に退屈ですし、やはり真剣さに欠けるので、あまり身につきませんでした。

個人的には、自社の事業を理解するには、大小にかかわらず、多くの案件をこなしていくことが一番有効な方法だと感じています。案件をこなしていく途中で関係者に話を聞いたり、関係法令や判例、過去の同種事例を調べたりすることで自社の事業への理解が深まっていくと考えています。そして、それらに関連する書籍を読んだり、関連したニュースに気を配ったり、他の弁護士の方が書いているブログやtwitter等で最新の情報を得たりして、業界への理解を深めて行くように努めています。

ただ、それでも自社の業務を完全に理解することは難しいと思っています。自社の業務を理解しているつもりでも、案件が来るたびに新しい発見があります。そのため、どんなに以前に

経験したことと似たような案件であっても、わかったつもりにならないように、ということを感じています。

5 企業内弁護士のやりがい

前述しましたように、案件をこなしていくと日々新しい発見があります。他部署の方と話をしている、自分にはなかった視点から意見を言われることもあり、はっとさせられることもあります。このような新たな発見があり、また他部署の方との率直な意見交換に楽しさを覚えると共に、自分が少しでも関わった仕事が形になると、自社が好きになっていくことを感じています。

また、法務の仕事以外でも先日、弊社のCSRのイベントの公開収録でAD業務を経験しましたが、外から見ているのと実際にやってみるとでは全然景色が違いました。思っているよりも緻密だったり、大ざっぱだったり、非常に勉強になりました。ADとしては、あまりに使えなくて怒られたりもしましたが、番組の出演者やスタッフの方の仕事ぶりを身をもって体験できたのも大きな経験でした。

今後は、テレビ局に入ったからには一度でいいから制作や報道の現場に携わってみたいと思っています。いつか、最初の面接で大口をたたいたように映画やバラエティの制作に関わることができたらと思っています。